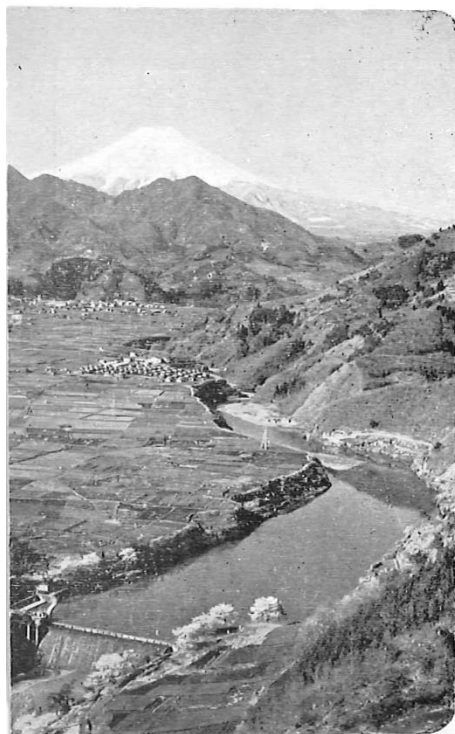


観光と史蹟



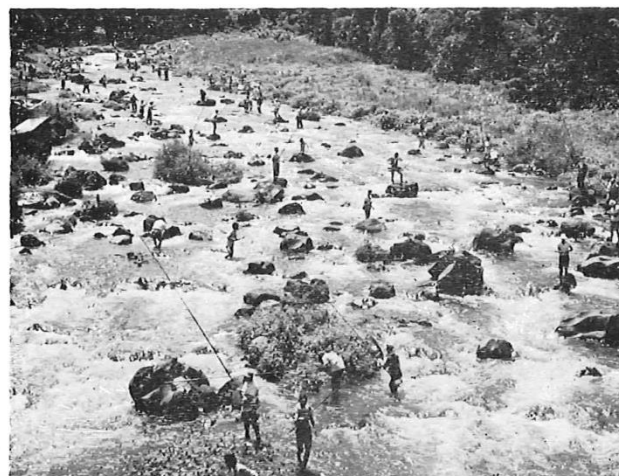
鹿留のさくら

東桂駅から徒歩10分のところに東京電力鹿留発電所がある。この周囲から山の水槽に樹令50年をかぞえるもの数百本、県下でも有数な桜の名所である。



川茂えん堤 禾生駅から徒歩で約5分のところに桂川をせき止め、東京電力が川茂発電所を設けたもので、ここもまた鹿留の桜とともに桜の名所である。

貯水池のまわりには桜の古木が並び、花の季節のほか新緑に秋の紅葉も美しく、とくに水面に映る逆さ富士はみごとである。



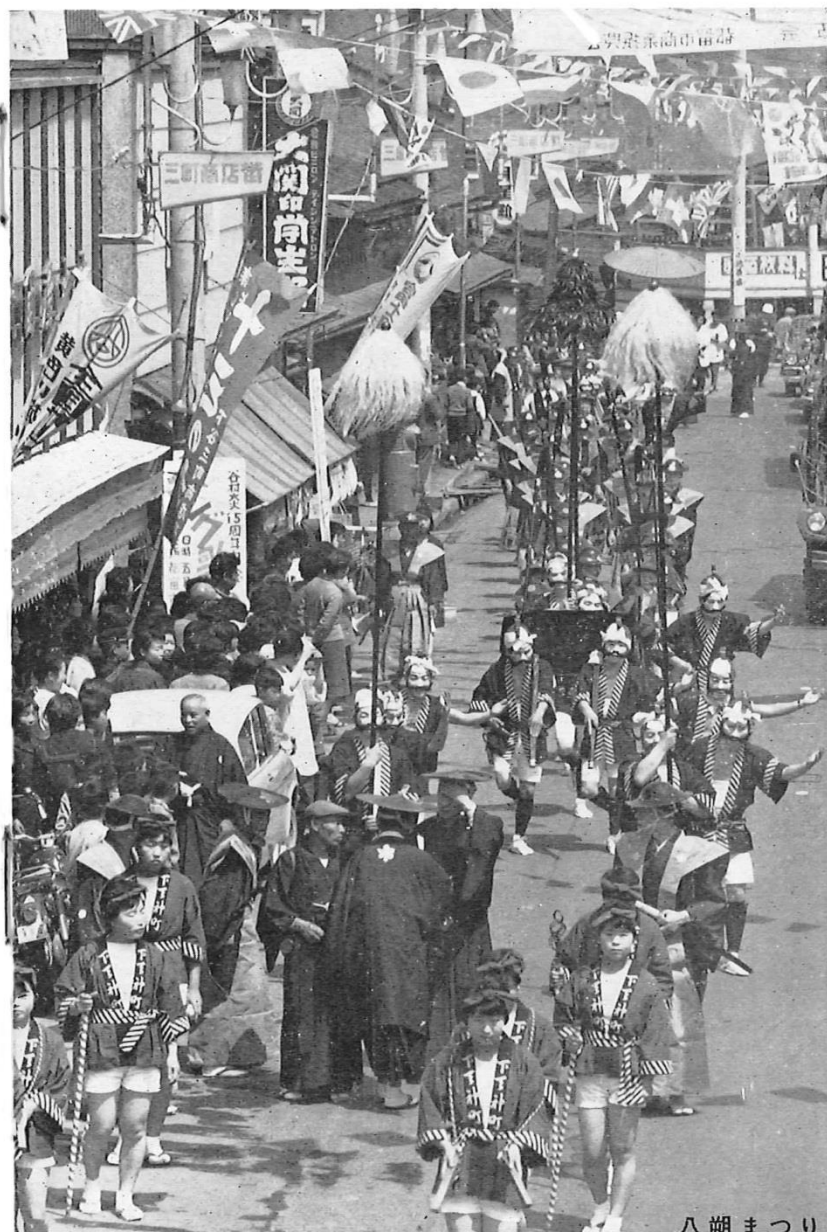
桂川のあゆつり 桂川は「あゆ」「ます」「やまめ」の宝庫で、毎年8月1日には、谷村町駅下の城南橋吉カ淵から源生までの約100mの流域で花火をあいずに、あゆつり大会が行われる。



↑ つつじの名所 鶴水園

鶴水園のつつじ 大学入口にある浄水場をつつじ100本、その他いろいろの木々を植え噴水をつくりなどして市民公園とした。

5月下旬ともなると色とりどりのつつじが咲きみだれ花見客で賑わう。

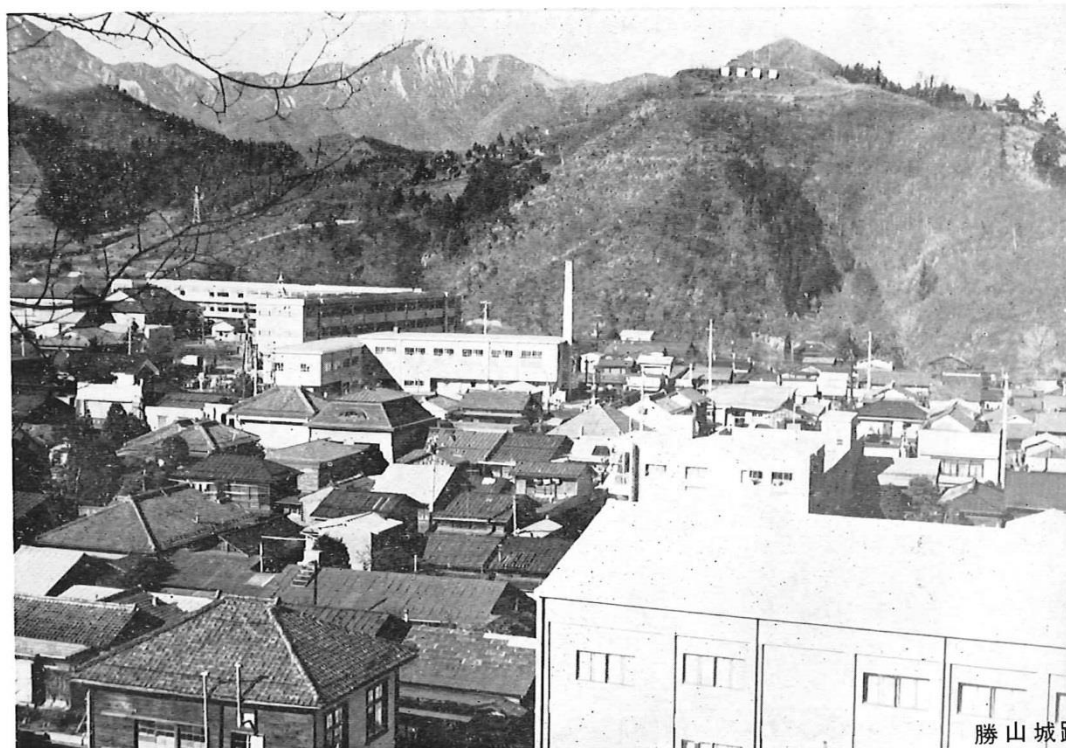


八朔まつり

八朔祭 各種祭典のうちで最も賑やかに行われるのが、四日市場にある生出神社の例祭「八朔祭」で、9月1日から3日間盛大に催される。氏子は数千人をかぞえ、昔は主として農事にかかわる行事として発達し、江戸中期のころからは神輿と神楽で巡幸し、これを迎え奉仕する。格式10万石の大名行列は古式にのつとり「下に、下に」と当時をしのばせ、またこれにくりだす屋台も豪華を極め、各町は出し物を競い、豊年を祝い祭りに酔う市民と県外からの見物客とで街はたいへんな賑わいとなる。

勝山城趾 1594年(文禄3年)浅野左衛門佐が城を築き、寛永10年から秋元但馬守泰朝が在城3代73年間続いたが、宝永元年秋元氏が川越に所替えとなつたため廃城となつた。

ここは桂川の深い峡谷を前に配し、後に自然の山が続き、天然の防備が備わっている。頂上からは市の中心部を一望することができ、現在は「お城山」として春秋の行楽に家族連れで賑わっている。大正14年3月県の史跡として指定された。 ↓



勝山城趾